

まえがき

こんにちは。着付け講師、着付け師のえりかです。大阪で「かるやか着付け苺」という小さな着付け教室を開いています。着物の着付けや着せ付けをお教えるほか、ご依頼を受けて、お客さまのもとへ出張して着付けをさせていただいています。地元を中心に地道に仕事をしていましたが、このたび縁あつて私の着物への思いを本にすることになりました。

着物の本といえは、着付けや帯結びの方法を図解した着付け本や、着物スタイリストさん監修のコーディネートブック、あるいは美しい伝統工芸品としての着物や帯を紹介した本などを連想されるかもしれません。この本ではそういった内容とは別の角度から着物を語っていますが、これから暮らしの中に着物を取り入れたい方々にきつとお役に立てる1冊だと思います。

今、着物生活に憧れ、日常的に着物を着たいという方が増えています。その着物とは、結婚式や式典などに着ていくフォーマルなものではなく、気軽なお出かけや、お友達とのお食事会に着るカジュアル着物です。

普段のファッションとして着物を楽しみたいと思ったら、カジュアル着物をはじめてみませんか？ 気軽な気持ちで着物を着て、街へ出かけてみましょう。

とはいえ、いざ着物を着ようと思っても、さまざまなお悩みを持つ方がいらっしやるのも事実です。

「着物についての知識がない」と、何を着たらよいのかわからない方。「着付けを習ってもすぐに忘れる」「練習のしかたがわからない」と、自分で着ることについてお悩みの方。「着物をどんなお店で買えばよいのかわからない」「いくらかかるのか不安」と、着物店で買うことに対して不安に思っている方。「いつ、何を、どんな

組み合わせで着るべきかわからない」と、コーディネートに関するお悩みなど、着物に関しての疑問や不安に思われていることを、多くの人から聞いてきました。そうしたことの根本には、「着物のことを誰に聞いたらよいかわからない」ということがあるのだと思います。

現代では洋服を着ることが主流となり、多くの人にとって、着物は特別な日に着るだけのものになっていきます。そのため、着物は身近なものでなくなってしまうのです。

しかし、着物はもともと日本の生活の中にあつた衣服です。生活の中の着物はカジュアル。現代の私たちにも、きつとなじみます。昔と同じコーディネートでなくてもよいのです。着物を着る人、それぞれに合った着物スタイルがあるはずです。

私は、着物業界とはあまり関係のない、ごく普通の家で生まれ育ちました。大人になってから着付け教室に通いはじめましたが、最初は基本的な着物用語もわからず、着付けに必要な小物類すら知らないような、何もできない初心者でした。

そんな私でも、レッスンが進むにつれ、教わった手順で着物を着られるようになり、帯結びが数通りできる頃には着付けがすっかり楽しくなっていました。それと同時に、着物に対する興味も深くなり、日常的に着物を着たいと思うようになりました。そうして「着物の楽しさを多くの人に伝えたい」と着付け講師、着付け師となり、現在の私があります。

今、私は講師として生徒さんにお教えしていますが、着物に関してはまさにゼロからのスタートでした。しかし、こういう過程を経てきたからこそ、着物初心者さんが抱えている悩みや行き詰まる点は予想することができます、また理解できます。いろいろな経験や、ときには失敗もしてきました。そんな私だからこそ、悩んでい

らっしやる方々に的確にアドバイスできる点も多いと思うのです。

もはや着物は、私にとつてのファッションスタイルです。着物を着ると、それだけで背筋が伸び、姿勢がよくなるのを感じます。気持ちがオフからオンに切り替わるのです。

私の場合は、着付け教室でレッスンをしたり、お客さまとの打ち合わせをしたり、着物は仕事着となります。プライベートでも、遊びに出かけるときや、友人とのランチ会、美術館や文楽鑑賞へ行くときも、やはり着物です。洋服で過ごす人がスーツやワンピースを着るような感覚で、私は着物を着ているのです。日常の生活の中で着る着物ですから、その日の気候や気温に合わせて着るものを決めていきます。

カジュアル着物に特別なルールはありません。着たいものを着たいときに、着たいコーディネートで着るというのが私のモットーです。これは、着物を日常的に着たいと思っている方々にも、ぜひおすすめしたいところですよ。

この本では、着物を着たい方々に向けて、着物を愛する私の目から見た着物の楽しさ、素晴らしさを語らせていただくとともに、また、着付け講師、着付け師としての立場からさまざまな項目において私なりの提案をいたします。腰紐や帯留めなどの小物には、比較的簡単に手作りできるものもありますので、この本の中で紹介しています。

さて、あなたはこれから着物を着てみたいと思っているところでしょうか？ それとも、ひとりであることができて、何かお悩みがありますか？ もしかしたら、着物を着てやってみたいことや目標があるのかもしれないですね。着物はとても楽しいものです。着物を着る人が1人でも多くなることを願いつつ、この本が1歩踏み出そうとしている方々の背中をそっと押してさしあげられるような、そんな存在になれば幸いです。